

新庁舎と組織の改編

Q 新設された防災交通課の目的とその役割は。

A 新庁舎を防災拠点として位置付け、防災システムの導入を行い、地域と連携をとり、更に自衛隊、消防、警察と組み細やかな対応ができる体制を構築したい。

防災力の向上を



完成間近の新庁舎

男女共同参画推進の施策は

Q 女性の社会進出が強く求められている。

A 子育て世代の就労支援や働く環境の整備にどのような施策を考えているのか。

Q 学校教育の場、家庭環境への啓発を積極的に行っていく事で理解の促進や育児介護に男性が参画する事など、固定観念を払拭していかなければならない。

A 今後は住民のニーズを把握して効果的な啓発活動を進めていきたい。



防災行政無線の活用と利便性向上は

Q 防災行政無線が聞き取れないとの意見があるが対策は。

A 昨今の住宅は高气密性の住宅も多く、聞き取れない場合がある。

A 個別受信機を配布している他、町外に居る場合等でも情報を得られる様、「からいもくん便り」登録も推進している。

A また、新庁舎建設に伴い電話での防災無線の聞き直しやSNS・ホームページへの自動配信等のシステムを導入する。



防災行政無線

街灯LED化の推進は

Q 街灯のLED化を進めていく方針だと思うが、いつまでに完了するのか。

A 一度に更新していきたいが、6〜7千万円程度の費用がかかる。

A 限られた財源の中で有利な交付金等の財源確保も含めて検討を行っていききたい。



LED化された街灯

地域公共交通会議

Q 地域公共交通会議では、免許返納者や高台に住む高齢者など不便を感じている人たちの意見が反映されていないように思われるが。

A 住民の代表として区長会や福祉団体の代表者に参画いただき意見を頂いている。

A 委員構成については随時検討を進めていきたい。

意見 高齢者の意見をきく方法として地区担当職員制度の活用はどうか。



東合いタクシーの適応外地域

新庁舎完成に向け

総務委員会レポート



瀬田神社 (震災ミュージアム)

Q 地方創生推進交付金事業の震災ミュージアムについて、どのように進めていくのか。

A 県の回廊型震災ミュージアム構想の中で、大津町の魅力や特色を発信し集客へと繋げていきたい。

A 具体的には世界かんがい施設遺産の上井手・下井手を水環境学習の場とする事、江藤家住宅を含めた南部サイクリングコースの設定等、魅力あるコース造りのアイデアを検討していく。

町の賑わい創出を

Q 地域おこし協力隊の活動についてどのような状況か。

A 現在2年目を迎え、やりたい事がはつきりしてきた状況で、それぞれの能力に見合った業務に取り組んでいる。

一人は、ユーチューブでの情報発信や、ハロウィンイベント等を企画し、もう一人も森林公園で木工教室などを行い、町の賑わい創出ができないか模索している。



地域おこし協力隊の活動の様子

意見 行政の発想ではできない柔軟な地域おこし策を行うために、国の交付金が使われている。評価の仕方や効果の検証などしっかりと考えていただきたい。



有害鳥獣対策

Q 有害鳥獣捕獲補助金について、猪より鹿の方が1000円捕獲補助金が多いと聞いたがなぜか。また、アナグマ、ハクビシンによる農作物被害はどのように対応しているのか。

A 鹿は、町の補助金とは別途、県から1頭あたり1000円補助金が出ている。

アナグマ等に関しては、鳥獣被害防止計画に基づき目撃情報があった場合は罠による捕獲を行っている。



捕獲された有害鳥獣

意見 捕獲補助金は、実績の増加により、補助額を上げてきているが、捕獲に係る経費の算出を行い、補助金の精査をして頂きたい。

コロナ禍でも

町の賑わい創出を

経済建設委員会レポート

商工会を応援

Q コロナ禍で飲食店をはじめ、商工会会員も大変苦労しながら頑張っている状況である。

その中で商工会が窓口となり、かなりの相談を受け、行政ではできない所をカバーしている。

この厳しい状況を乗り越えるには現場の声をくみ上げ、しっかり行動するための経費が必要であり、助成のあり方を考えるべきではないか。

A 事前に要望を聴取して計上したが、再度、商

工会と連携を取りながら、有効に活用できる様に検討していきたい。



大津町商工会館

一戸建て木造住宅の耐震化を支援

Q 戸建木造住宅耐震化支援とは、具体的にはどのようなことか。

A 耐震性がない可能性がある住宅の耐震化を進める所有者に補助を行うものである。

昭和56年5月31日以前の古い耐震基準で建てられた住宅と熊本地震により被害を受けた住宅を対象に啓発を行っている。



耐震化している建物



シルバー人材センターの状況は

Q 高齢者の働く意欲や人に役立つたいとの思いから登録者数が増えており、需要と供給のバランスが崩れていないか。

A 年々登録者が増えており、ワンコインサービスなどの利用を増やそうと考えている。

意見 働くことで健康や生きがいに繋がっていく。多方面で経験をされた方も多いので様々な業務を委託できるように検討してほしい。

タブレット端末はじまる



活躍するシルバー会員

運動公園利用拡大は

Q 火曜日も開放することで安全面の確保やナイター利用は問題ないか。また、利用拡大に向けて大会などの誘致を進めるべきではないか。

A 昼間は職員が管理し、夜間はシルバー人材センターに、管理委託を行う予定で、問題なく利用可能である。

また、スポーツコミッションや民間と連携し、九州・全国規模の大会などの誘致を考えている。



大津町運動公園

GIGAスクール

Q 児童生徒に一人一台のタブレット端末を貸出し持ち帰り学習をする際、インターネット環境が整っていない家庭への対応は。

ルーター等の貸し出しをどう行うのか。

A 県の指針などを参考にしながら貸し出す世帯や方法を決めていく。

Q ある程度の規制は必要だが、常時持ち帰り自由に利用できる環境を整えるべきではないか。

A まず、子どもたちや教職員が不自由なく使えるようになり、効果的な体制と安心して学習できる環境が整ってから持ち帰りを開始したい。

意見 できるだけ早期に、制約なく自由に使える環境整備を実現してほしい。

ひとり一台の (情報通信技術) ICT教育

文教厚生 委員会 レポート



インターネットを活用した授業風景

歴史文化伝承館

Q 土日の利用が多いにもかかわらず日曜日に説明できる職員がいらないのはもったいない。また、対応の部分でも良い印象がない。

A 今後は職員が現場に向かい指導していく。

意見 上井手や下井手などをはじめとする、町の文化を紹介していく拠点として整備された。町内・外のお客様のためにも職員配置も含め、施設の有効活用を検討してほしい。



大津町歴史文化伝承館